

大阪府交野市教育委員会

実践校：交野市立第三中学校（全校生徒数：489人、実践研究の対象：第3学年161人）

①実践研究の趣旨・目的

令和4年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙のうち、交野市立第三中学校では「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問に対する肯定的回答は82.8%、「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対する肯定的回答は43.2%であった。学校・地域への社会参画という実践により、①生徒一人ひとりが、集団（社会）をよりよくするために何ができるかを主体的に考え、行動する力、②意見の違いや相手の立場を理解する柔軟性を高め、他者と協働することができるチームで働く力、③地域の構成員の一人としての意識を育み、よりよい社会の実現に向けて社会の形成に主体的に参画しようとする力の3点を高めることを目的とした。

②実践内容

（１）教育委員会等での取組・工夫

- ①実践の進捗及び生徒の実態を確認するとともに、状況に応じて指導助言する。
 - ・本事業に係る学校訪問を学期に2～3回実施する他、随時聞き取りを行う。
 - ・アンケート結果より成果や課題を分析し、計画の見直しや修正等を行い、共有する。
- ②第三中学校の取組内容の市内他校への普及を図る。
 - ・市小中一貫カリキュラム担当者会において、担当教員から実践報告を行う。（年2回）
 - ・市内学校への配布物等を通して、第三中学校の取組を紹介する。

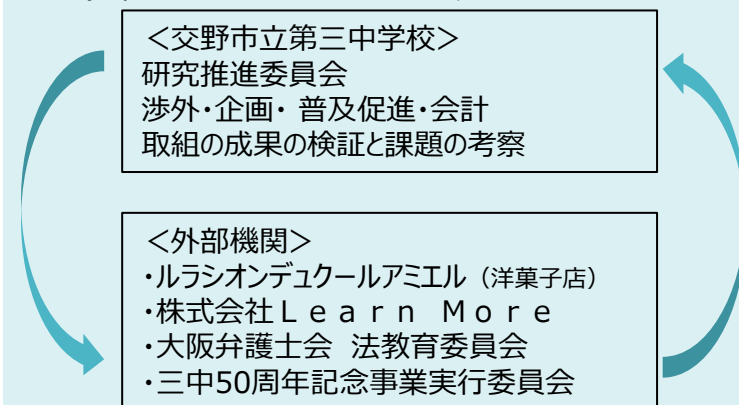
（２）実践校での取組・工夫

＜自治的な力を高めるための学校への社会参画に関する実践＞

- ①生徒総会に関する取組
- ②学校行事に関する取組
- ③学校生活の決まりについて考える取組

- ・学級活動において、学級や学校における生活をよりよくするための課題や改善点を生徒が主体的に見出し、課題を解決するために話し合う機会を設けた。
- ・学級活動で、話し合い活動をする際は、事前に代議員会を実施し、合意形成の観点や多様な意見を生かして、他者と協働して取り組むことの大切さについて指導した。
- ・生徒総会や体育祭原案等についての話し合いの場については、生徒が司会を務め、議事・運営を進める形で行うこととし、その中で話し合いの内容が目標から離れた時や、提案理由が明確でない時等には、生徒の主体性を確保しつつ、必要に応じて教職員が助言をするように、組織として指導の方向性を統一した。

（３）校内の実施体制・外部連携



- ＜地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて社会の形成に主体的に参画しようとする力を高めるための地域への社会参画に関する実践＞
- ・地域の特色についての調べ学習
 - ・特産物を生かした商品開発の考案
 - ・交野俳句・カタノのチカラに関する学習
 - ・クリーンアップ作戦
 - ・星のまち学園ふれあいフェスティバル

③実践の具体事例【交野市立第三中学校第3学年】

【内容のまとめ】学級活動（１）学級や学校における生活づくりへの参画

【育成を目指す資質・能力】他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、学級・学校や地域をよりよくするための課題を見いだして課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができる力を育成する。



時間	一連の活動と他教科との関連	
	内容項目・学習活動	関連付けた他教科等
1時間	学級活動（１）ア 生徒総会に向けて	
1時間	生徒会活動 生徒総会	
1時間	学級活動（１）ウ 修学旅行に向けて	
5時間	学級活動（１）ウ 体育祭に向けて	
2時間	学級活動（１）ウ 合唱コンクールに向けて	
3時間	学校行事 勤労生産・奉仕的行事	社会科
3時間	学級活動（１）ア 学校生活の決まりについて 考える	
11時間	学校行事 勤労生産・奉仕的行事	総合的な学習の時間

議題 授業の概要

「学校生活の決まり」について考えよう

<概要>

講師による講演から「学校生活の決まり」の意義・役割について考えた。その後、よりよく学校生活を過ごすことができるように、現状「学校生活の決まり」について学級で決まりの修正の必要の有無も含め話し合った。生徒間で協働し合い、合意形成を図り、意見をまとめた。

<指導上の工夫>

○学校生活の充実と向上に参画することを促す取組

- ・「学校生活の決まり」を資料として扱い、主体的に学校へ社会参画することをねらいとした。
- ・「学校生活の決まり」について話し合う前に、有識者を招聘し、「決まり」についての講演を実施し、生徒の「決まり」の意義に関する知識を深めた。
- ・学級活動で話し合い活動をする際は、事前に代議員会を実施し、合意形成（意見を出し合う・くらべ合う・まとめる）の観点や多様な意見を生かして、他者と協働して取り組むことの大切さについて指導した。
- ・「個人⇒班⇒学級」の過程で話し合い活動を実施し、合意形成を図った。

専門家や関 係諸機関等と の連携・協働

大阪弁護士会 法教育委員会 弁護士

【一連の活動における評価】

学校独自で年２回実施している「社会参画についてのアンケート」結果や、取組後に行う生徒の感想文の内容から、生徒が主体となり、見通しをもったり振り返ったりしながら対話を重ねる活動を通して、多様な意見を生かして合意形成を図り、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとする力を高めることができたか評価する。（主体的に生活や人間関係をよりよくする態度）

④取組の成果や効果・課題

・学校独自で実施している「令和６年度 社会参画についてのアンケート」において、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問項目の生徒の肯定的回答の割合は、昨年度の92.4%から98.5%に上昇した。「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問項目の生徒の肯定的回答の割合は、昨年度の83.4%から94.7%に上昇した。これらの結果から、合意形成の力や他者と協働して物事に取り組む「チームで働く力」、社会をよりよくするために何ができるかを主体的に考え、行動する力や、社会の形成に主体的に参画しようとする力を高めることができた。

・「学校生活の決まりについて考える」という実践の結果、生徒感想文からは「（決まりについての）メリット・デメリットをしっかりと考えて、どうしたらみんなが納得できるのかを考えたことで、よりよい意見がうまれたことがよかったと思いました。」「話し合いをすることで、１つの意見ができあがっていく感覚を身に付けた。」などの感想があり、生徒の合意形成を図る力を高めることができたと考えます。